

## Y21b 2段ロケット方式による星空案内人養成

渡邊瑛里、柴田晋平(山形大/NPO 法人小さな天文学者の会) 稲村陽子、熊谷幸三、堀井敬之(NPO 法人小さな天文学者の会)、ほか星空案内人資格創設プロジェクトチーム

天文教育普及を目的として「やまがた天文台」では「星空案内人資格認定講座」「やさしい宇宙講座」を開催している。講座を受講し所定の単位を取得することで「星空案内人」資格とその準備段階である「星空案内人(準案内人)」資格(以下、準案内人資格)を取得できる。毎回受講生の20%以上が講座終了時に準案内人資格を取得し、星空案内人を目指す。その際、認定講座の実技単位取得が大きなハードルになっていることが明らかになった。

この問題を解決するために、まず実技の単位取得を伴わない準案内人になるまでと、その後実技の練習/単位取得を行い星空案内人になるまでの2段階を切り離した。第2段階目のシステムとして、講座スタッフ、既に星空案内人の資格を取得したメンバー、これから星空案内人を目指す準案内人の三者をブログとメールリストで結んだ。このように三者が連携して学習していく「星空案内人養成コース」の開発を行い、良い結果を得たので報告する。

このシステムの下、定講座の実技科目である「望遠鏡を使ってみよう(屈折望遠鏡)」「望遠鏡を使ってみよう(反射望遠鏡)」「星座をみつけよう」の練習予約や認定試験を行う。練習や認定試験は主にやまがた天文台の一般公開時に行われ、準案内人はブログを通して練習や試験の予約を行う。練習や試験の際には実際にやまがた天文台で星空ガイドツアーを行っている星空案内人の補佐として活動し技量を揉まれることになる。

9-12月の養成期間を経て3名の準案内人が星空案内人資格を取得した。今まで1年間に2人程度しか星空案内人が誕生していなかったことを考えると、これは大きな飛躍である。発表ではシステムの流れや利用状況などについて詳しく説明をする。(星空案内人認定講座の全国での取り組みなどについては別の発表やポスターも参考にしていきたい。)